

知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション

研究するってどういうこと？

～知床をフィールドにする研究者たち～

知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション

研究

するってどういうこと？

2024
2/3 (土)
14:00～16:00

知床をフィールドにする研究者たち

白根 ゆりさん
鈴木 紅葉さん
船木 大資さん

お申し込みはこちら

<https://www.gk1.or.jp/03082024.html>

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、知床をフィールドに研究を行ってきた若手研究者3名をスピーカーに迎え、知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッションを開催しました。3回目の開催で、全国各地の65名が参加しました。

日時：2024年2月3日（土）
14:00～16:00

方法：オンライン（Zoomによる）

スピーカー：

- ・白根 ゆりさん
（北海道立総合研究機構 研究職員）
- ・鈴木 紅葉さん
（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）
- ・船木 大資さん
（知床自然大学院大学設立財団研究員
筑波大学大学院 博士後期課程）

進行：竹川 智恵

（知床自然大学院大学設立財団事務局）

参加者：65名

北海道、宮城県、東京都、千葉県、滋賀県、大阪府、京都府、鳥取県、長崎県、沖縄県など全国各地のほか、韓国、ドイツからもご参加いただきました。



スピーカー紹介（敬称略）

Shirane Yuri

白根 ゆり



北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所自然環境部 研究職員。兵庫県宝塚市出身、2011年北海道大学入学。2015年から、ヒグマの生態研究のため札幌と知床を往復する日々を送る。知床で約1,500個のヒグマ糞に出会い、内容を分析した。2021年に北海道大学大学院獣医学院博士課程を修了し、現職。現在は、遺伝子分析を用いて農地や市街地に出没するヒグマの研究に取り組む。

Suzuki Kureha

鈴木 紅葉



東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員。東京都出身。2014年に東京農工大学入学後、2016年2月に知床財団にて冬のインターンを経験。2018年の横浜国立大学大学院入学後から現在まで、知床にて研究活動を実施。フィールドワーク、リモートセンシング、森林動態モデルにより、環境変動（自然撓乱）が森林の組成や構造に与える影響を評価している。2023年に横浜国立大学大学院にて博士（環境学）を取得し、現職。

Funaki Daisuke

船木 大資



筑波大学大学院博士後期課程（世界文化遺産学専攻）、知床自然大学院大学設立財団研究員。1991年、秋田県出身。博士前期課程から知床世界自然遺産を対象に研究を開始し、同財団事業「知床ネイチャーキャンパス」に参加した縁で2021年斜里町へと移住。同財団で働きながら研究を継続する生活を送っている。現在の研究テーマは自然遺産及び遺産地域の歴史・記憶。

プログラム

2024年2月3日（土） 14:00～16:00

- | | |
|-------------|------------------------|
| 14:00～14:05 | 主催者あいさつ（事務局） |
| 14:05～14:25 | トーク1 白根 ゆりさん |
| 14:25～14:45 | トーク2 鈴木 紅葉さん |
| 14:45～15:05 | トーク3 船木 大資さん |
| 15:05～15:50 | 3人での意見交換（進行：事務局・竹川智恵） |
| 15:50～16:00 | 主催者あいさつ（中川元・当財団業務執行理事） |

トーク1 白根 ゆりさん

白根さんが学生時代におこなった知床のヒグマのヘアトラップ調査や食性調査の成果に加えて、その調査に関わる滞在時の経験についてもお話しいただきました。白根さんが北海道に来たきっかけは写真家の星野道夫の本だったそうです。はじめからヒグマの研究をするつもりだったわけではなく、のちになってヒグマとヒトが共に生きる方法を見つけるために研究を決意したとのこと。白根さんは研究を「自分がいかに『わかっていないか』を自覚すること」だと考えていらっしゃるそうで、参加者からも勉強になったという反応が寄せられました。

トーク3 船木 大資さん

知床での人々の暮らしの歴史、そしてそれを伝える活動について研究するとともに、当財団で「知床ネイチャーキャンパス」の企画などを担当している船木さん。大学院の研究だけでなく、知床での仕事の内容や、地域の人々の「歴史する」活動への参加の経験などもお話しいただきました。仕事と研究が好ましい循環関係にあるという一方、研究に十分に時間を割くことができないといった大変さもあるとのこと。船木さんにとって研究とは、「生活と密接にあり、面白かろうが辛かろうが常にそこにあるもの」だそうで、「知床で暮らし、うごくことそのもの」と表現していました。

トークセッション

簡単なアイスブレイキングをおこなったあと、参加者とスピーカーとの意見交換や交流を行いました。チャットには多くのコメントが寄せられ、生の声が聞けて面白かったという声、40年前に知床で調査をされていたという方からのスピーカーへの応援メッセージ、進路に悩んでいたが勇気ももらえた・参考になったという学生の方々からのコメントなど、様々なものがありました。

最後に各スピーカーから今後の抱負と、これから研究者を目指す方々にメッセージが送られ、トークセッションは終了しました。

トーク2 鈴木 紅葉さん

修士課程から現在まで知床での森林再生を主な研究テーマとしている鈴木さん。「知床100平方メートル運動」は国際的にも先進的な取り組みであるとのことで、ご自身の研究を紹介していただくとともに、運動の魅力もたっぷり語っていただきました。「自然攪乱が大好き」な鈴木さんであっても、研究の計画から発表までのプロセスでは苦勞することも少なくないそうです。鈴木さんにとって研究とは「『知的好奇心』のパズルと『社会課題解決の糸口』のパズルを組み合わせること」だそうで、これからも知床で研究していきたい、という決意を表明していただきました。

